**４　海域世界の展開と大交易圏の成立**教科書p.152～154

**モンスーン航海の確立と発展**

(1)**海のシルクロード**（**海の道**）…西アジア・東アフリカから東アジアにいたる海の道

　・紀元前…沿岸短距離航海をリレー（中国の絹，熱帯・亜熱帯の香薬・象牙・真珠などの奢侈品）

　・モンスーン航海…1世紀にアラビア海，4世紀にベンガル湾と南シナ海で確立

　　→海上交通が安全確実で迅速になる→南インド，東南アジア諸島部で**港市国家**が発展

(2)中国の南海交易（7～8世紀ごろまでは朝貢貿易が中心）

　・ペルシアやアラブの**ダウ船**が来航し，民間商人の交易が中心になる

　・8～9世紀…唐とアッバース朝の間で活況を呈する

　・9世紀前半…外洋航海に耐えうる堅牢な**ジャンク船**が中国で開発される

　　→中国商人が東シナ海・南シナ海へ…日本は国家事業としての遣唐使船を派遣する必要がなくな

　る

**ジャンク船とダウ船**

(1)海上ルートの重要性が高まる（9世紀ごろ～）⇔陸上ルートは政治状況によってしばしば途絶

　・中国の主要輸出品（陶磁器や銅銭などの重量物）の運搬は船が有利

　・海域アジア…海を領域(領海)として支配しなかったので，航路が長期間とだえることがない

(2) マラッカ海峡のクダ…東西の商人が出会う交易地として中枢港市に発展

　・黄巣の乱で広州破壊(9世紀末)→ダウ船がクダまで後退し，ジャンク船が南シナ海に進出

(3)イスラーム都市ネットーワークの中心…バグダートからカイロ・アレクサンドリアへ

　・バグダードの政治的混乱（10世紀後半），ペルシア湾の中心的港市が地震で壊滅

　　→アラビア海域の主要航路が**ペルシア湾ルート**から**紅海ルート**に移る

(4)12世紀

　・ジャンク船…南インドまで進出，南インドの港市（クイロン，カリカットなど）が栄える

　　　　　　　　ベンガル湾・南シナ海で活躍

　・ダウ船…アラビア海で活躍

(5)市舶司（宋代には広州・泉州・明州・杭州などに設置）…港や交易の管理・課税など

**二つの辺境－東地中海とアフリカ東岸**

(1)東地中海（海域世界の北西辺境）

　・北イタリア諸都市（ヴェネツィア・ジェノヴァなど）…地中海東部との東方貿易展開

　　→ヨーロッパ全域にアジアの商品（香薬など）への需要が高まる

(2)アフリカ東海岸（海域世界の西の辺境

　・マリンディ・ザンジバル・キルワなどの港市にムスリム商人が来航

　　→バントゥー文化とイスラーム文化が融合…スワヒリ文化，**スワヒリ語**（商業用語）普及

　・南のソファーラ…内陸のジンバブエとの交易拠点として栄える

**大交易圏の成立**

(1)**大交易圏**の形成(13世紀末)

　・モンゴルによる南宋の滅亡→中国市場をモンゴル帝国が統合

　　→ユーラシア規模の陸上交易網が海上交易網と結合（フビライの東南アジアへの武力政策挫折）

　　→ユーラシアと北アフリカ・東アフリカを含む大交易圏の形成→大交易時代につながる

　・マルコ=ポーロ…『世界の記述(東方見聞録)』

　・イブン=バットゥータ…『大旅行記(三大陸周遊記)』

(2)大交易圏の崩壊(14世紀なかば）

　・モンゴル帝国の分裂→陸路の統一がくずれる

　・明の海禁政策→中国商人の海上活動衰退，ジャンク船がインド洋から撤退